



※今月号は、文字が多くなってしまいました。読みづらいとは思いますがご容赦下さい。

校長室の窓から

「ジブリ美術館に行ってきました」

「スカイツリーも見てきたよ」

子どもたちの声から、楽しかった夏休みの様子を垣間見ることができます。

そして、大きな事故や事件に巻き込まれることなく、40余日の長期休業を乗り越えられたのは、保護者のみなさま、地域のみなさまのおかげと感謝申し上げます。ありがとうございました。

夏休みは次のように過ごしましょうという話を、1学期終業式にしました。

① 夏バテ知らずの「早寝・早起き・朝ご飯」

2学期が始まって10日あまり、登校してくる子どもたちは元気いっぱいです。クーラー漬けになっていたわけではなく、夏の太陽を適度に浴び、規則正しい生活が送れたようです。

② 続けよう「読書と朝学習」

「ミニトマトに毎日水をやり、たくさんトマトがなったよ」

「朝顔の観察をしたよ」という低学年。高学年になると夏休み中に取り組んだ自主学習ノートは、質・量ともに密度の濃いものでした。そして、作文・絵画をはじめ、たくさんの課題をやり遂げることができました。

③ やり遂げよう「夏休みにしかできないこと」

キャンプや水泳など夏にしかできないことにも挑戦しました。特に、合唱団のみなさんは、よくがんばりました。そして、大きな大会に参加することができ、私たちにも感動と喜びを分けてくれました。

④ 進んでしよう「お手伝い」

「トイレ掃除が上手になりました」とは、個別面談で保護者の方からいただいた言葉。夏休み中も家族の一員としての役割を果たした子どもたちが多かったようです。

⑤ みんなで参加しよう「地域行事」

暑い中、きららパレードに参加した金管バンドとバトンクラブのみなさん。そして、地域の祭りにも多くの子もたちがいい笑顔で参加していました。

お子さまの様子はどうだったでしょうか。

始業式では、2学期のあたりまえにできることのレベルアップは、「整理整頓」だということをお話しました。陰山英男さんが「学力を上げる生活習慣」という題で、次のように書いています。

最近、断舍利という言葉がはやっています。身の回りにある物を整理整頓し、すっきりさせることで、心の乱れも整理し、前向きな自分に生まれ変わることで、物を整理することによって、タンスや棚に空間ができ、新しい物を入れることができるようになります。それは、自分自身が前向きに進めるということをも意味し、新しい可能性に向けて、新しいことを始める意欲にもつながってきます。整理整頓とは、必要な時にさっと物を取り出せることだけを意味しているわけではありません。人間は、視界に入ってくる物のありようが、心のありように大きく影響してきます。自分でもわからないものが乱雑に置いてあれば、心はやや重くなっていくものです。(中略) 子どもたちの行動に大きく影響を与えることも知っておいていただきたいと思います。(中略) 整理整頓を定期的に行い、自分にとって何が大切なのか、何をすべきなのかを考えさせることにつなげていってください。(後略)

低学年は、自分の身の回りを片付け次の作業がしやすい状態を作ること、中学年は、少し先を見通して片付ける手順を考えること、高学年は物の整理整頓だけでなく、思考の整理整頓も行うことを目指したいと考えています。ご家庭でも、子どもたちの整理整頓の様子を見ていただければと思います。

豊かな心の醸成を

学校が育てる力「生きる力」には、確かな学力とともに豊かな心があります。学力については、いろいろな機会に話してきましたので、今回は、「豊かな心」について考えていることを書いてみました。

「豊かな心」とは、

- ・美しいものに素直に感動する心
- ・自分や他人の良さを知る心
- ・違いを認め尊重する心
- ・他人を思いやる心
- ・命を尊重する心

などなど、思いつくままに挙げてみました。

これらの心は、自然と育つものかというところではないと思います。

1996年に亡くなった司馬遼太郎さんが、次のように書いています。



自然物としての人間は、決して孤立して生きられるようにはつくられていない。このため、助けあう、ということが、人間にとって、大きな道徳になっている。助けあうという気持ちや行動のものは、いたわりという感情である。他人の痛みを感じることにいってもいい。やさしさと言いかえてもいい。「いたわり」「他人の痛みを感じること」「やさしさ」みな似たような言葉である。この三つの言葉は、もともと一つの根っこから出ているのである。根といっても、本能ではない。だから、私たちは訓練をしてそれを身に付けねばならないのである。その訓練とは、簡単なことである。例えば、友達が転ぶ。ああ痛かったろうな、と感じる気持ちをその都度自分でつくりあげていきさえすればいい。この根っこの感情が、自己の中でしっかり根づいていけば、他民族へのいたわりという気持ちもわき出てくる。君たちさえ、そういう自己をつくっていけば、21世紀は人類が仲良く暮らせる時代になるのに違いない。(「21世紀を生きる君たちへ」より抜粋)

つまり、体験しその都度学習していかないと「豊かな心」は育たないということです。そのために、学校教育・家庭教育があるのだと思います。

特に、「命を尊重する心」は自他ともに1つしかない命を大切にしてほしいものです。

昨今、いじめの問題が取り上げられています。夏休みの研修の中で、私たち教職員は、「豊かな心」の醸成が学校教育にゆだねられている部分が大きいことを再認識しました。そして、

いじめは絶対に許してはならない

どんな小さなことも見逃さない

という感覚をさらに研ぎすますとともに

子どもたちにとって待たれる学校生活でありたい

子どもたちの心を耕していきたい

といった想いを互いに確認し、そうするためには、どんな教育活動をすればいいのかといった研修を行いました。先生方は自分の学級・担当だけを見ているのではなく、学年を、学校全体を見えています。そして、登下校時だけでなく、学校生活のいろいろな場で子どもたちに声をかけています。また、2学期も授業や学校行事等を通して、子どもたちのよさを発見し励ましていきます。ぜひ、ご家庭で気がかりなことがありましたら、学校にご連絡をいただきたいと思います。早めの対応は何よりも大切なことと考えておりますので、ご協力をお願いいたします。



御出産おめでとうございます
小島綾子先生、
無事出産されました。
8月30日、男児出産
名前は英晃(ひであき)ちゃん

ようし
小島綾子先生の代わりに、
鈴木麻衣子先生に
お願いいたします。
担当は、3・4年生の算数です

2学期、9月は学習・生活習慣を再確認し、落ち着いた学習習慣作り

10月は遠足、陸上記録会

生活の場を校外に移しても日頃身についたことができるという証明

11月は校内音楽会

感動を共有し、伝統の力を再確認する場

と、盛りだくさんの学期となりそうです。が、何をやる場なのかをはっきりさせながら子どもたちとともにがんばりたいと思います。よろしくご協力をお願いいたします。